

# ねぎの需給動向

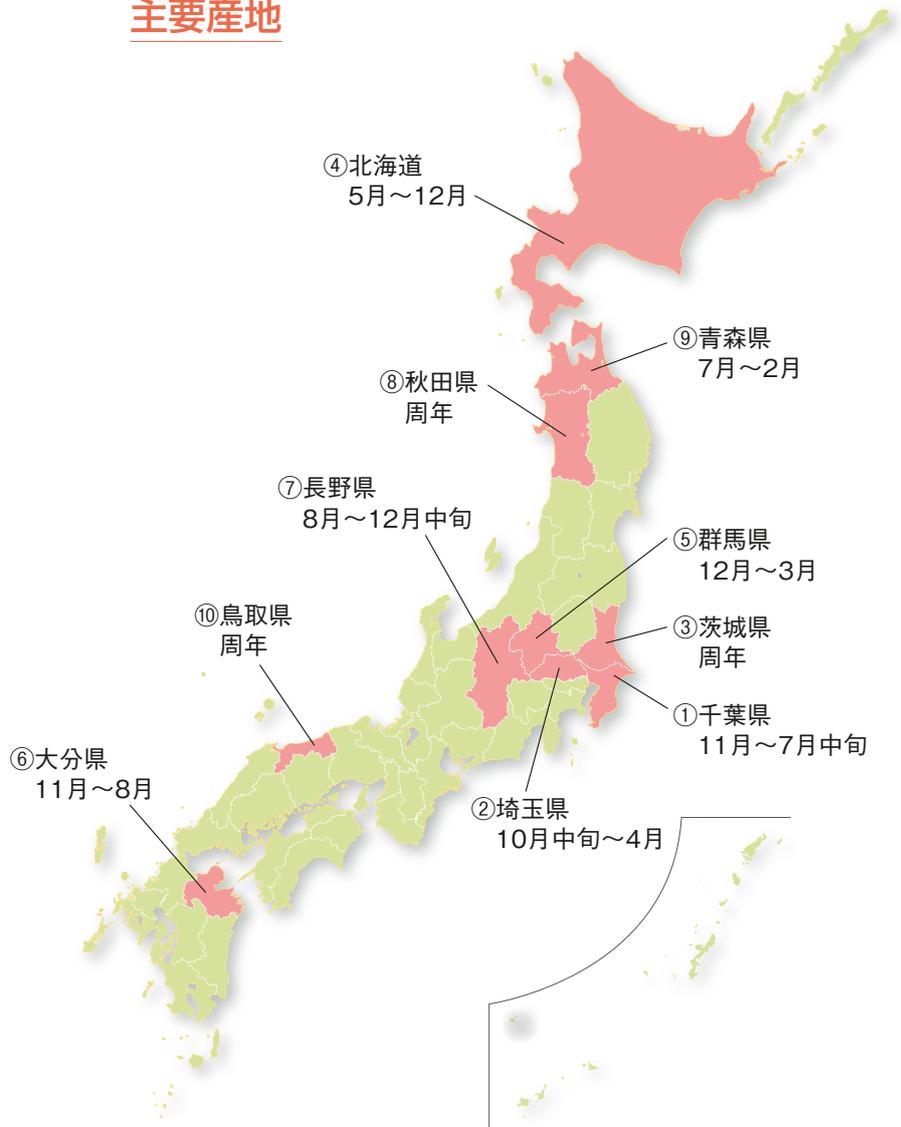


小ねぎ (佐賀産)



ねぎ (埼玉産)

## 主要産地



資料：農林水産省「令和2年度野菜生産出荷統計」

注：図中の番号は収穫量の多い順番、期間は主な出荷期間を表している。

ねぎの原産地は中国といわれ、3000年も前から栽培されていたといわれている。身体を温め、疲労を回復する薬用植物として珍重されていた。暑さ、寒さに強いため、アジア全域で作られ、日本では奈良時代にはすでに栽培されていた。

昔から東日本では主に、根元に土寄せして

白い部分（葉鞘<sup>ようしょう</sup>）を長く育てる根深ねぎが栽培され、西日本では耕土が浅い土地が多かったことから、土寄せせずに作る、緑の葉の先端まで食べられる柔らかい葉ねぎが栽培されていた。「関東は白、関西は緑」を食べる食文化がすでにできあがっていたといえる。

## 作付面積・出荷量・単収の推移

令和2年の作付面積は、2万2000ヘクタール（前年比98.2%）と、前年よりわずかに減少した。

上位5県では、

- ・埼玉県 2230ヘクタール（同 93.3%）
  - ・千葉県 2130ヘクタール（同 99.1%）
  - ・茨城県 1960ヘクタール（同 98.0%）
  - ・群馬県 1020ヘクタール（同 99.0%）
  - ・大分県 973ヘクタール（同101.0%）
- となっている。

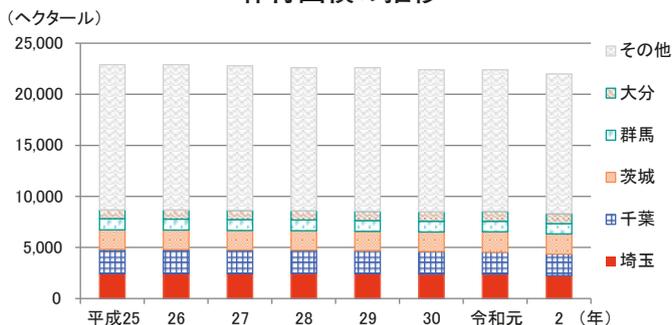
令和2年の出荷量は、36万4100トン（前年比95.2%）と、前年よりやや減少した。

上位5道県では、

- ・千葉県 5万1500トン（同 88.5%）
  - ・茨城県 4万3000トン（同 94.3%）
  - ・埼玉県 4万2400トン（同 90.2%）
  - ・北海道 2万 500トン（同106.8%）
  - ・大分県 1万5900トン（同108.9%）
- となっている。

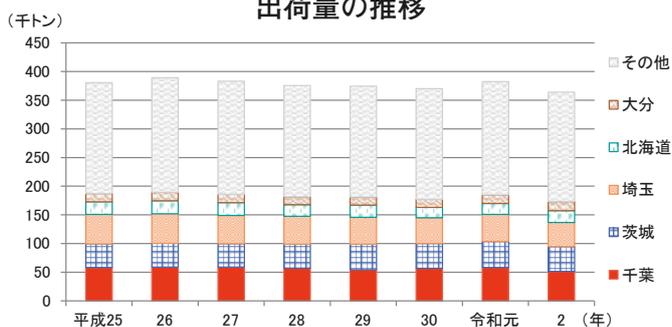
出荷量上位5道県について、10アール当たりの収量を見ると、北海道の3.43トンが最も多く、次いで千葉県の2.67トン、茨城県の2.50トンと続いている。その他の府県で多いのは、京都府の2.59トン、青森県の2.51トンであり、全国平均は2.01トンとなっている。

### 作付面積の推移



資料：農林水産省「令和2年産野菜生産出荷統計」

### 出荷量の推移



資料：農林水産省「令和2年産野菜生産出荷統計」

### 令和2年産の主産地の単収



資料：農林水産省「令和2年産野菜生産出荷統計」

注：黄色は、出荷量上位5道県以外で単収が多い2府県および全国平均。

## 作付けされている主な品種等

昔から関東では白ねぎの消費が多く、関西では青ねぎの消費が多いとされているが、現在では全国で両方のねぎが食べられるようになり、料理に合わせて使い分けるようにも

なった。品種も以前の白ねぎ用や青ねぎ用だけでなく、栽培方法によっては両方に使える中間品種などもある。

都道府県名	主な品種
埼玉県	龍ひかり、龍まさり など
千葉県	夏扇、龍ひかり
茨城県	春扇、夏扇、関羽、龍まさり
群馬県	夏扇、冬扇
大分県	龍まさり、初夏扇、初夏扇2号

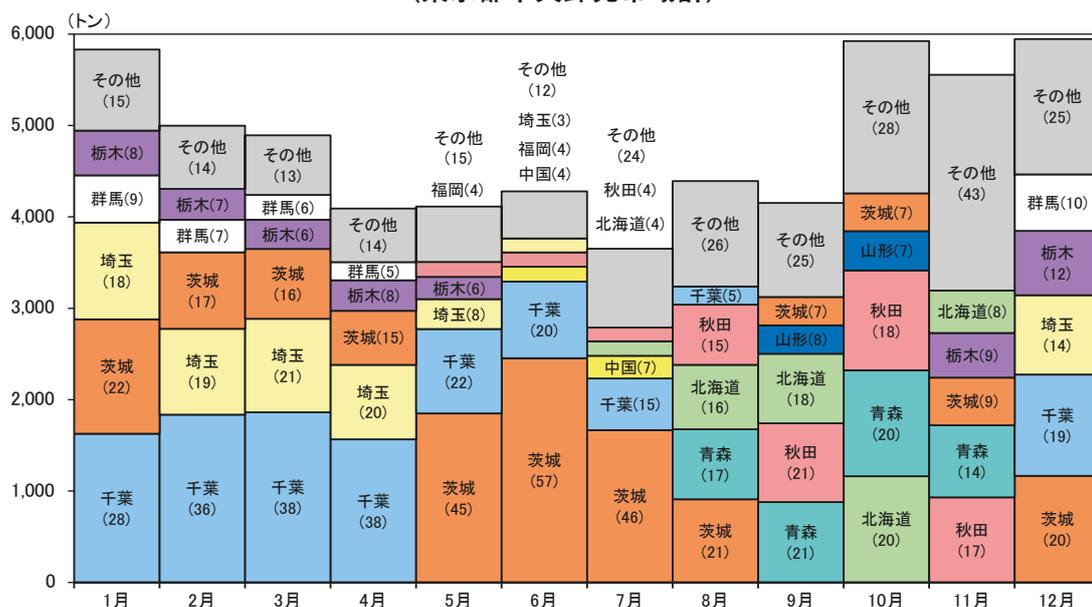
資料：関係者聞き取りにより農畜産業振興機構作成。

## 東京都・大阪中央卸売市場における月別県別入荷実績

東京都中央卸売市場の月別入荷実績（令和2年）を見ると、年間を通して茨城県から入荷があるほか、入荷が多い10月から翌4月にかけては千葉県、埼玉県、群馬県、栃木県

など近在の産地が増え、8月以降は青森県、秋田県、北海道、山形県など東北などの産地へと移行する。

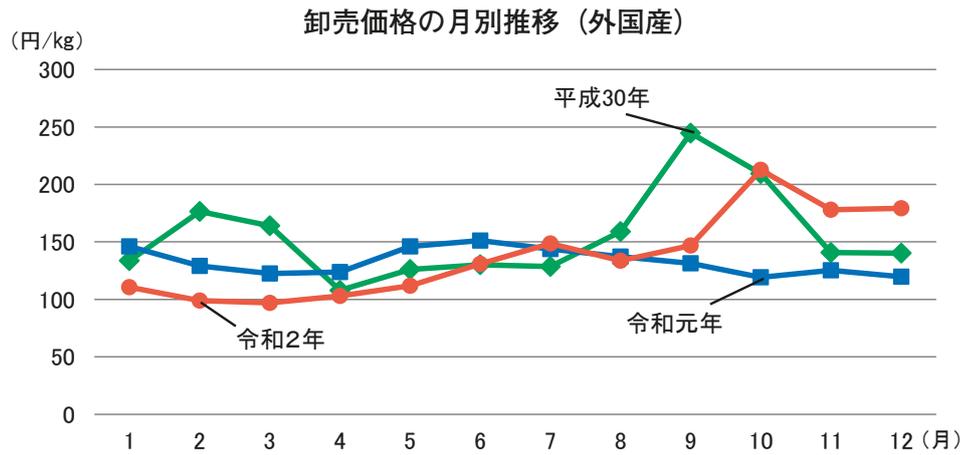
令和2年 ねぎ（ねぎ+こねぎ）の月別入荷実績  
（東京都中央卸売市場計）



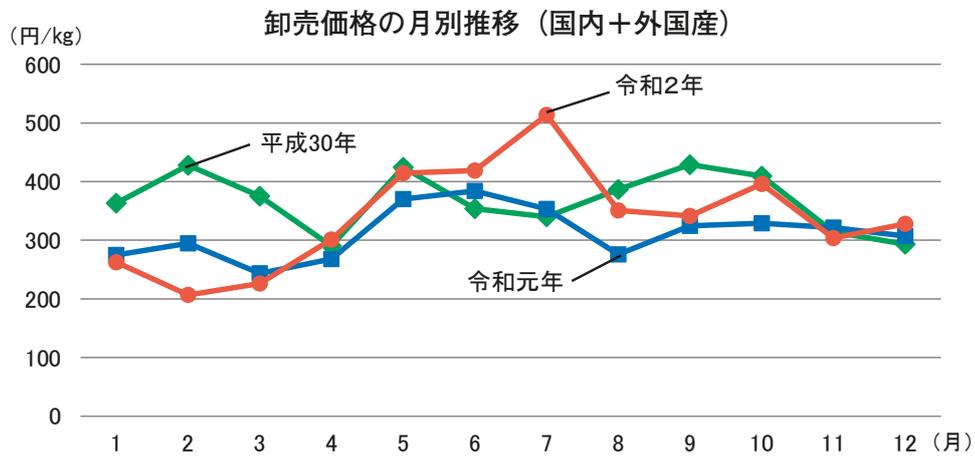
資料：農畜産業振興機構「ベジ探」（原資料：令和2年東京都中央卸売市場年報）

注：（ ）内の数値は、月別入荷量全体に占める割合（%）である。

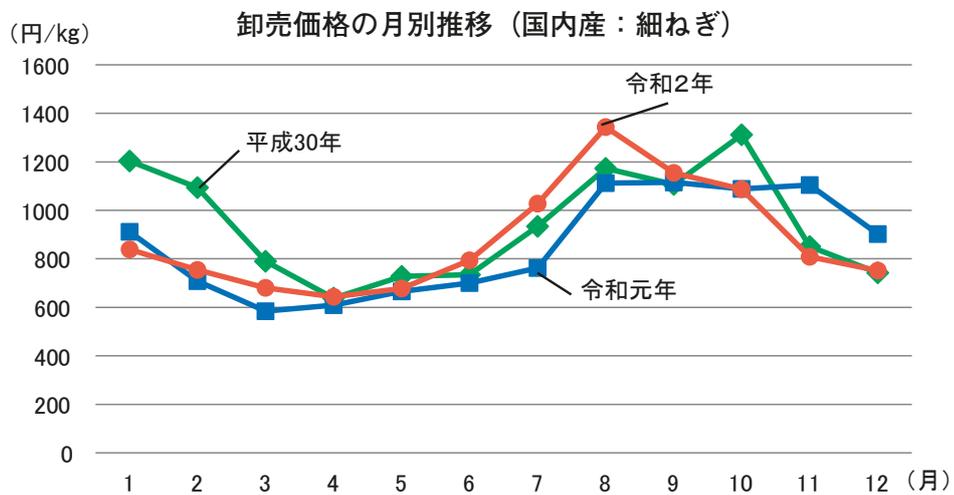




資料：農畜産業振興機構「ベジ探」（原資料：東京都中央卸売市場「市場月報」）



資料：農畜産業振興機構「ベジ探」（原資料：東京都中央卸売市場「市場月報」）

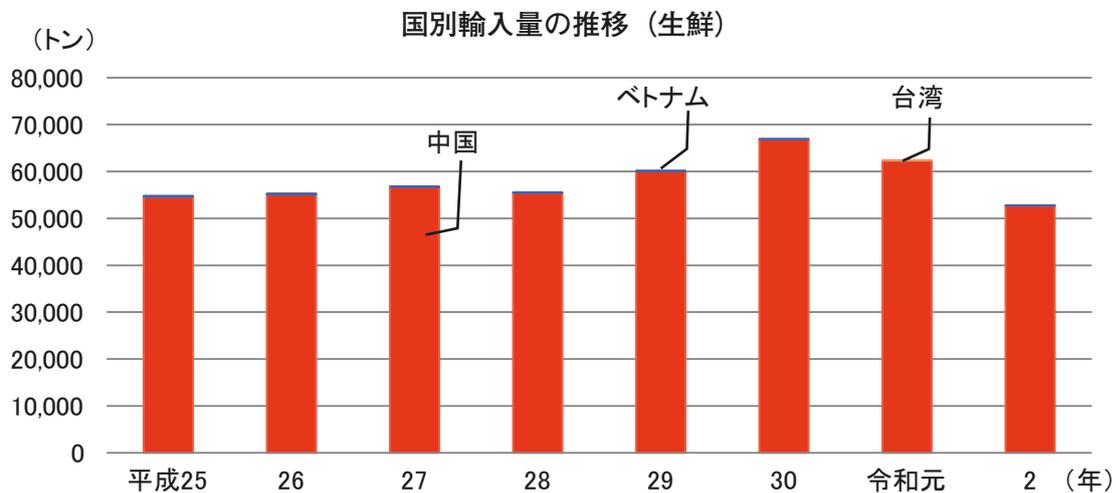


資料：農畜産業振興機構「ベジ探」（原資料：東京都中央卸売市場「市場月報」）

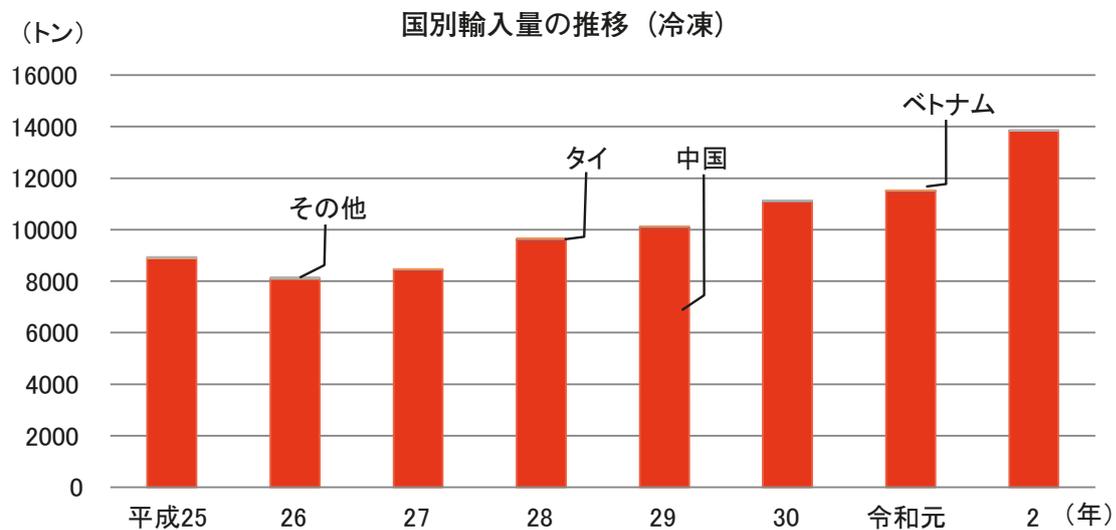
## 輸入量の動向

輸入量は、生鮮ねぎが5万2000~6万7000トン、冷凍ねぎが8000~1万4000ト

ンの間で安定的に推移しており、最大の輸入先国は中国となっている。



資料：農畜産業振興機構「ベジ探」（原資料：財務省「貿易統計」）

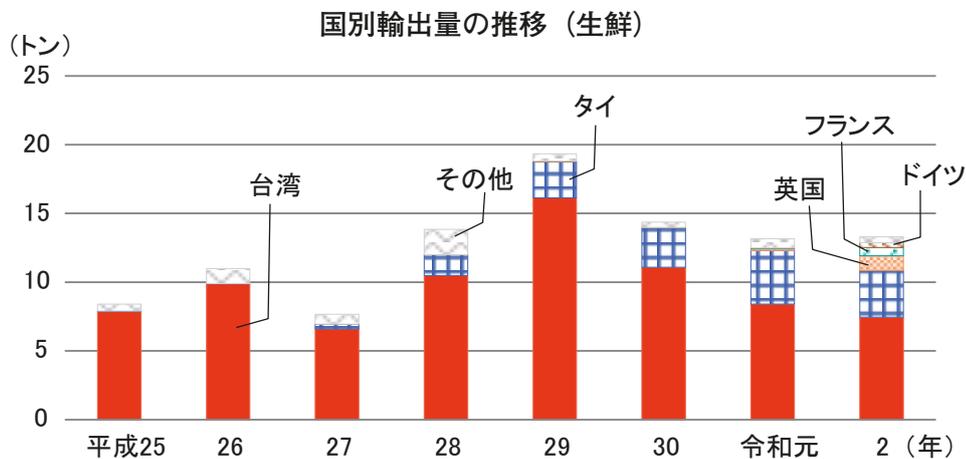


資料：農林水産省「植物防疫統計」  
注：検査数量の数値である。

## 輸出量の動向

生鮮ねぎの輸出は、平成29年をピークに近年は14万トン前後で推移しており、令和

2年の輸出先国は、台湾が最も多く、次いでタイ、英国、フランス、ドイツとなっている。



資料：農林水産省「植物防疫統計」

注：検査数量の数値である。

## ねぎの消費動向

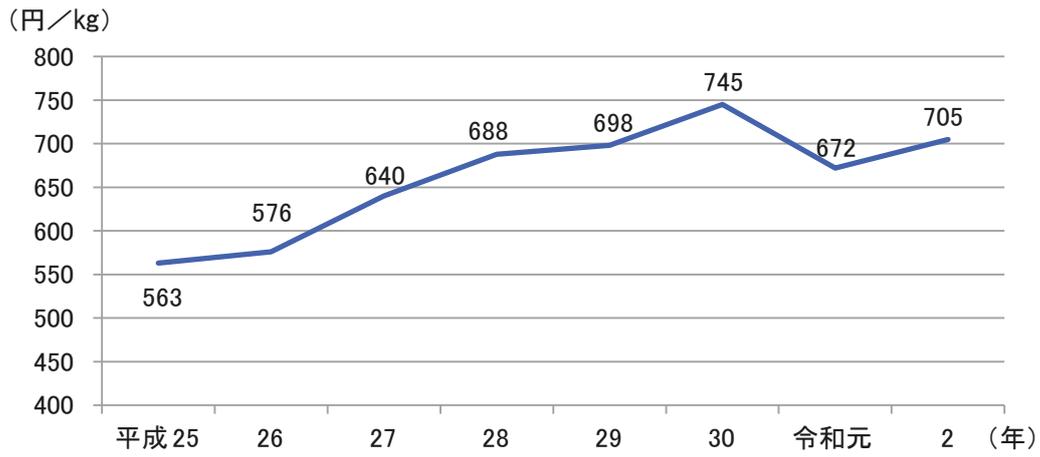
ねぎの1人当たりの年間購入量は1.6キログラム前後で推移している。比較的栽培期間が長い作物であることから、長雨、気温上昇、干ばつなど、最近の天候不順により生育不良や収穫作業の遅れなどの影響を受けやすく、不安定な入荷となる時期が多いと小売価格は上昇傾向となる。

ねぎは、夏は薬味に冬は鍋物商材として、年間を通してさまざまな料理に欠かせない野菜である。肉や魚料理に使うと味を引き立てるだけでなく、殺菌・消臭効果もあるため、すき焼きや焼き鳥、貝のぬたなどにねぎを合わせるのは理にかなった使い方といえる。



資料：農畜産業振興機構「ベジ探」（原資料：総務省「家計調査年報」）

### 小売価格（東京都区部）の動向



資料：農畜産業振興機構「ベジ探」（原資料：総務省「小売物価統計調査」）

